

文窓

ふみのまど

発行

平成19年8月31日

第5号

神戸大学文学部同窓会

会長：安部 栄治

事務局

〒657-8501

神戸市灘区六甲台町1-1

TEL(078)881-1212(代)

FAX(078)803-5529



文窓会の近況

文窓会会長 9回生
安部 栄治

文学部同窓会の皆様には、ご健勝にてご活躍のことと存じます。

神戸大学が法人化され、文学部も大学院が充実されるなど以前にも増して活発な動きをみせています。文窓会も会員相互の研鑽、親睦のため、さらには文学部の発展のために多くの事業を展開しています。その一端を紹介し、ご報告とさせていただきます。

この度、文窓会と在校生との交流を深めるため、3、4回生を対象にレポートコンテストを実施し、文窓賞を提供することにいたしました。入賞者は毎年9月に開催される(今年は9月29日)文学部ホームカミングデイにおいて表彰を行います。

また、この同窓会誌「文窓」(ふみのまど)は第5号になりましたが、同窓生であることを意識していただきたく、全会員に配付しています。さらに今年は5年ぶりに同窓会名簿を発行することにしました。これも会員相互の連絡、交流にご活用いただければ幸いです。

文学部学舎が昭和39年御影から移転して以来、本年度全面改修されることになりました。それに伴う什器備品の予算は限られ、当局は苦心されていますが、同窓生、同窓会の支援も期待されています。なお改修により同窓会も使用可能な多目的室が設けられます。

また、大学としても「神戸大学基金」を創設し、広く卒業生や企業に対し協力を呼びかけていますが、文窓会としても協力することとし、既に皆様方へご案内させていただいた次第です。

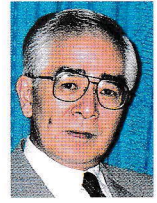
さらに、文窓会は神戸大学各学部同窓会の連合体である神戸大学学友会の運営や神戸大学広報誌「Kobe university STYLE」の編集、神戸大学クラブ(KUC)の運営などにも積極的に参加しています。

また、文窓会東京支部、中部支部(東海支部の拡充)との連携も強化しています。

今後とも会員の皆様のご指導とご協力を切にお願いする次第です。

新しい文学部・ 人文学研究科へ向けて

文学部長・人文学研究科長
文窓会名誉会長 松嶋 隆二



文学部同窓会の皆様、お元気でご活躍のことと存じます。

平成19年度より大学院が改組され、人文・人間系の大学院は各学部の上にそれぞれ研究科が積み上がった形になりました。文学部全教員と留学生センターの教員からなる区分制の人文学研究科の発足により、学部から大学院まで見通せるすっきりした教育体制が出来上がりました。これにより文学部で学ぶ学生たちが将来の進路を考える際にも、余計な迷いを持たなくてすむのではと考えております。また、我々教職員は教育の実質化という重要な課題になお一層取り組んでゆくことが求められており、この目標達成のためにも喜ばしいことと考えております。

昨年は古くなった文学部新館の耐震補強工事が実現しました。ただし、内部は古いままですが、地震で倒壊するという恐れはなくなりました。今年度には懸案であった昭和39年竣工の文学部本館が全面的に改修されます。改築ではありませんが学生や教員にとってより使いやすい施設になります。恐らく今年度のホームカミングデイの頃には、工事もかなり進んでいることと思われます。国の財政逼迫の折、早期にこのような改修が実現できることになったのは大変喜ばしいことですが、学生や教職員のための快適なアメニティー空間を確保するために、教員、学生の研究室の移転経費等予想外に多くの経費が必要です。この機会に書棚、机、椅子などの更新を必要とするものが多々出てきておりますが、何とか努力して快適な勉強環境を実現したいと考えております。また、文学部にとって必須の人文系図書館もスペースを広げ、市民の図書利用を可能とする方向で、改修を実現できそうです。市民の方だけでなく同窓生の皆様もご利用いただければ幸いです。

文窓会の皆様の集う場所として多目的室を確保する予定ですので、なお一層密接な連携を深め、文学部の発展のためにご協力いただければ幸いです。

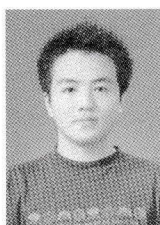
あなたの学生生活を応援する

第1回 文窓賞

学生レポート コンテスト 受賞者が決定!

今、神戸大学文学部で学生生活を送りながら、意欲的にさまざまなことに取り組んでいる学生諸君を応援したい。そんな思いから文窓会主催の初の「文窓賞 学生レポートコンテスト」が開催されました。14編の応募作から受賞されたのは、次の皆さんです。

第1回文窓賞 学生レポートコンテスト入賞者 (敬称略)



◎最優秀感動賞

表彰状と賞金10万円

「韓国留学を通して」

3回生 田中 寛樹 (東洋史学専修)



◎最優秀充実賞

表彰状と賞金10万円

「ディベートを通して世界が見える」

4回生 塩見 実加 (英米文学専修)



○優秀賞

表彰状と賞金3万円

「すべての『出会い』に感謝しよう」

4回生 百武 由加里 (社会学専修)



○優秀賞

表彰状と賞金3万円

「新しい言語世界の扉を開く」

4回生 八幡 さくら (哲学専修)

<佳作>

東海林 雄三、鈴木 慎介、林 俊之、森元 まゆみ、諸熊 広毅、川崎 愛子、成田 有衣、藤井 祥平、真鍋 花菜、藤岡 三貴子&山田 美佳

●選考委員

松嶋 隆二 学部長、釜谷 武志 教授、林原 純生 教授
安部 栄治、日高 健一、池上 淑子、中西 みな子、花木 直彦、鞍井 修一

表彰式は、9月29日文学部ホームカミングデイにて行います。(詳細は15ページ)

※最優秀作2点は「文窓」ホームページでご覧いただけます。

COTENTS.....

文窓会の近況／新しい文学部・人文学研究科へ向けて.....	1
第1回文窓賞 学生レポートコンテスト受賞者発表.....	2
文学部当世(いまどき)留学生事情.....	3~7
神戸大学文学部 留学生の概況(平成15~19年度).....	8~9
文窓会会員より／文学部本館の全面改修.....	10~12
東京支部便り／中部支部便り.....	13
神戸大学文窓会 [平成18年度]会計報告.....	14
お知らせ 第2回ホームカミングデイ	
ホームページ紹介／活動報告.....	15
学友会/K・U・C／編集後記.....	16

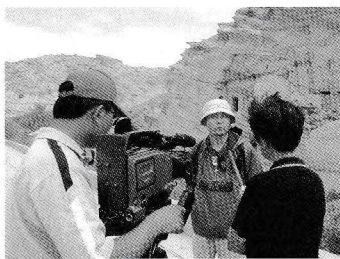
文学部 ^{いまだき} 当世 留学生事情

神戸大学では文部科学省の「大学国際戦略本部強化事業」に採択され、平成17年7月1日より「国際交流推進本部」を発足させるなど、国際交流に新たな展開が始まっています。そんな中で、文学部で学ぶ留学生たちはどんなことを学び、どんなことを感じているのでしょうか。今回は現在母国で活躍する卒業生を含めて、その声を聞いてみました。

ユネスコ北京事務所で文化遺産の保存修復を。

杜曉帆(中国)

現:ユネスコ北京事務所・文化遺産保護項目官員/神戸大学大学院文化学研究科修士



(シルクロードでの取材調査)

私は1996年4月に、神戸大学大学院文化学研究科文化構造専攻に入り、美術史を専攻し、1999年9月に博士号(文学)を取得しました。美術史研究室では美術史について活発で深い研究が行われていたのは勿論ですが、国内外の研究者との交流も盛んに行われていて、国際的にも活躍できる素養を身に付けることができました。

その後、奈良国立文化財研究所の特別研究員

となり、保存修復科学研究室で研究と実務に携わりました。「東アジアにおける古代彩色の考古学的研究」という研究課題の責任者として、日本、韓国、中国などでの美術品と遺跡・遺物の調査ができ、さらに各国における文化財の保存科学の実態を把握することができました。いまはユネスコ北京事務所で、文化遺産保護専門家として、中国、モンゴル、北朝鮮、韓国及び日本の文化遺産保存修復事業に携わっています。

こうした活動のためには文化遺産マネジメントの能力が必要とされます。地域や国、とりわけアジア地域とのコミュニケーションの重要性など、神戸大学で学んだ国際レベルの交流技術が役に立っています。

台湾で学生と日本との出会いの場を演出。

陳斐寧(台湾)

現:静宜大学専任助理教授/神戸大学大学院文化学研究科修士



私は現在台湾、台中にある静宜大学の外国語学部日本語教師として勤めております。神戸大学に通っていたときを振り返って見ますと、国文学専攻に在籍していた9年間は、何ものにも替えがたい時間でした。「十年一昔」と申しますが、振り返ってみれば「昔」というほどではなく、つい昨日のことにように思い出されます。

神戸大学の国文学には、超一流の先生方がおられ、先生方を前に少人数で行われる演習は、妥協を許さず、極めて厳しい態度で臨むものでした。特に演習や研究発表では、学生がそれぞれの担当箇所について発表し議論を戦わせる中で、自ら考え、それを説得力のある言葉にする

ことの難しさ、大切さを学びました。また、膨大な古記録にあたり、個々の用例を読み取り、そこから独自の新たな知見を発見するためには時間をかけ、そのための生みの苦しみを味わわなければなりませんでしたが、それを通して古典研究の本当の難しさ楽しさを知ると同時に、このような優れた環境で日々過ごし研究できる喜びをしっかりと噛み締めることができました。

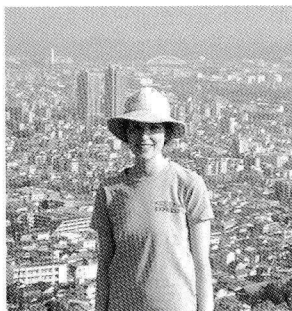
教育の場で、初めて「日本語、日本文学」というものに触れる台湾の学生と「日本」との出会いの場を演出すること、それが今の仕事です。

「教える」立場に立ちますと、わたし自身の人間的成長のために教育して下さっていた神戸大学の先生方のご苦勞とありがたさが今更ながらよくわかります。そんなことは露知らず脳天気な学生であった私をいつも温かく見守って下さり、研究や論文の相談や質問にも懇切丁寧に応じて下さった先生方には本当に心より感謝しております。本当にありがとうございました。

「カエルの歌」で知った日本語の面白さ。

アンドレア テューズ (Andrea Tews) (アメリカ)

神戸大学大学院人文学研究科・博士後期課程・研究生



大学4年生の時にたまたま2人の日本人と一緒に住むことになりました。初めてアメリカ人でない人と同居して最高に面白い1年になりました。ルームメートの友情を通して皆さんのことが学べました。よく英語の作文を直してあげて日本や日本語のことを教えてもらったりしました。最初習った日本語は全部歌でした。「カエルの歌が聞こえてくるよ〜グワッグワッ…」しりとり

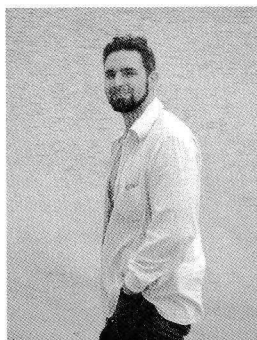
等の言葉遊びもよく一緒にやってくれました。そういう風遊びながら少しずつ単語や表現が分るようになって、それで初めて外国語でコミュニケーションができました。

大学で学んだことを顧みると一番今まで頭に残っているのはおそらく日本語の面白さです。外国語の勉強は世界を広げる道具だと分りました。新しい友達を作る道具だと経験しました。その年のルームメート達のお陰で日本語と言語学を勉強する決心ができて、そして結局日本留学に導かれました。今神戸大学で日本語のイントネーションやアクセントの調査をさせて頂いています。将来は言語研究を続け、教師として言語の面白さを伝えることを目指しております。

日本へ来て言語学で未知の範囲に入る。

ピンテル ガーボル (Pinter Gabor) (ハンガリー)

神戸大学大学院文化科学研究科・博士課程3年生・社会文化専攻



人間は恐らく未知が最も恐ろしい。

恐くなくても、知らないものについては疑わしく考えて、あまり信用できなくて、できれば避けたいと思っている人が多い。

僕は日本に来て、大学院に入って、同時に、その恐れるべし未知の範囲の中に入ってしまった。様々な意味で。

母国に住んでいる友達から見ると、まず、日本に住むことは、想像しにくい。

友達の頭の中では、主に「侍、芸者、漫画、やくざ、神風、台風」などといった欠片からなる日本人のイメージと、砂場でバケツとシャベルを一緒に使っていた私のイメージは、同一シーンに入りにくい。相当想像しにくい。これは

未知の範囲。

でも、この問題を頭の中でなんとか整理しても、そこに新しい問題が出てくる。即ち、私の「仕事」。僕は言語学者に習っているわけ。

言語学ってなに？言語学習すること？と聞かれたら、緊密にそうでもない。

言語を教えること？でもない。じゃ、言語学って何？

そこではまた未知の範囲に入ってしまう。

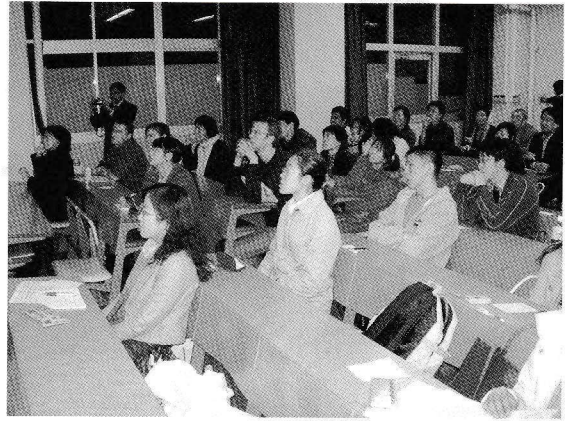
遠くてよく知らない日本に住んでいて、しかもわけが分からない分野を研究していて、友達から見ると、僕は未知だらけで、謎めいた人に見えるかも。

しかし、友達は日本に来て、日本は「普通」の人が住んでいる普通の国だとすぐ分かるし、30分ぐらい時間をくれれば、言語学は言語を対象とするどんな学問だと説明してあげるし。

そこに謎が消え、僕も未知の範囲を出て、普通の友達に戻る。

● 留学生フォーラム

留学生と日本人学生が参加するトークセッションが毎年11～12月頃に開かれています。毎回のテーマについて、互いの考え方や意見を発表し合う中で、意外な違いを発見したり思いがけない近さを感じたりして相互理解を深めるよいチャンスとなっています。昨年第17回のテーマは「家族のあり方～留学生の家族観、日本人の家族観～」でした。



故郷の内モンゴルの発展に役立ちたい。

巴徳瑪(中国)

神戸大学大学院人文学研究科・博士前期課程1年生・文化構造専攻



日本に留学して、瞬く間に3年目を迎えた。一言でまとめれば、充実した留学生生活を過ごしてきたと思う。

最初の日本生活は多事多難だった。住まいや食べ物はもちろん、大学で必死に習った日本語が役に立たず、泣き出さんばかりだった。勉強の傍ら、アルバイトし、生活を支えることは独立独歩し始めたばかりの私にとっては難しかった。しかし「苦あれば楽あり」という諺のように、親しい先生と親切な日本の方々

がいろいろ指導し、援助してくれたお陰で、徐々に慣れるようになった。不思議なのは外国という違和感が消え、日本が私の第二の故郷になったことである。その一方、学校とバイトで忙しい毎を送りながら、時折生まれ育った内モンゴルの故郷を私は思い出す。発展の途上にある民族のために私には何ができるだろうか。そうしたことを真剣に考えるようになったのも、留学に来てからである。

神戸留学は私の一生の宝物で、留学して本当に良かったと思っている。喜怒哀楽に満ちた留学生生活が私に一人前の大人になるための人生学を教えてくれた。これからも、私を支え励してくれた方々の期待に応えて、ベストを尽くして頑張っていきたい。

百年記念館に勇気づけられる日々。

金貞蘭(韓国)

神戸大学大学院人文学研究科・博士後期課程1年生・社会動態専攻



研究が行き詰まったり、いろいろな悩みで頭の中が混乱したりしたら、私は文学部の近くにある神戸大学百年記念館の前に足を運びます。そこから神戸の風景を見下ろすと、故郷である釜山の風景がオーバーラップして浮かび上がってきます。私は社会学の所属で19世紀後半における海港都市釜山に関して研究しています。小さな漁村であった釜山が「文明」の名のもとに近代

化の渦に巻きこまれ、近代港湾都市に生まれ変わっていく。その歴史的な経緯は神戸と似ているところがあります。そのためか、百年記念館から見下ろす神戸の風景は親しみ深いです。その風景を見ながら、私は時代を遡って19世紀の神戸と釜山を想像してみます。近代化の波で一変する世の中、その時代を戸惑いながら生きていた人々。このような想像をしていると、私の悩みがどれだけちっぽけなことかもだんだんわかってくるのです。そこから私は新しい力を得るのです。このように百年記念館では息抜きの時間を過ごすことができます。

漢字への好奇心から言語へ、文化へ。

エストルンド イェンス オルフ カール(Ostlund, Jens Olof Karl)(スウェーデン)

神戸大学大学院人文学研究科・博士前期課程・研究生



日本語を習いたいと思った理由は簡単に言えば二つあります。先ず、スウェーデンで普段に教わる西ヨーロッパの諸言語からできるだけ離れた言葉を勉強してみたかったです。それからもう一つの理由は、子供のときからずっと好奇心をそそっていた「漢字」というものにチャレンジしたいと思ったのです。

最初の印象は日本語とスウェーデン語は全く

違うものだと思っていたけれども、違うものでありながら、段々共通しているところも見えてきました。それで言語そのものはどういうものなのかということを知りたくて言語学という分野に移りました。今はスウェーデン語と日本語との対照研究をしています。

言語は文化と共存しているから、言語を知るために、その言語を話している人の文化を知る必要があると思って、日本留学を決意しました。日本に留学することによって、いろいろな人と出会ったり、日本の美しい風景を味わったり、新しいことを沢山体験したりしながら、日本語の真髄を探ることができるようになりました。

留学生のための見学ツアー

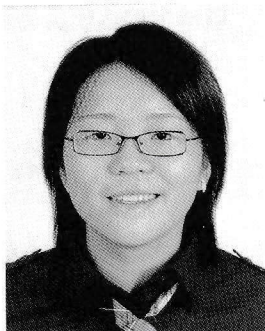
留学生には日本各地の文化に触れるチャンスを、また日本人学生や教職員が参加することでお互いの理解とふれあいを深めることを目的に、毎年5月、日帰りバス旅行を実施しています。写真は第8回目の今年の見学ツアーのスナップ。天橋立へ行きました。



源氏の光を追って日本へ来た感動。

彭海霞(中国)

神戸大学大学院人文学研究科・博士前期課程・研究生



2007年4月2日、日本時間午前7時、希望満載の「新鑑真号」が神戸港に着岸した。海景色を満喫しながら、47時間の船旅を経て、私は日本に来了。幻のように澄んだ青空が広がり、きれい！！道も水も小石さえも。

船を下りて、この夢の国に踏み始めた。咲き乱れていた桜、紛れるほど鮮やかな店の看板、きちんと列に並んだ乗車待ちの人々、植木鉢や花が飾ってある小ぢんまりとした家家…この目に映った全てを覚えようとした。教科書の中でしか出会えなかったことが一つ一つ本物になり、

最高な気分になった。日本に来了！！

光陰矢の如し。来たころまだロマンチックなピンクに染まっていた日本は、今すっかり新緑に溢れてきた。アジサイが季節のヒロインになった。僅か2ヶ月半だったが、感動の連続だった。

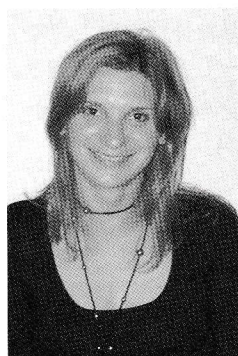
あの源氏の光を追って来た私は「明石、須磨」の付近に住み、神戸大学で勉強することができたことに胸を躍らせた。「古典研究の道には茨が蔓延り、進むほど息が詰まりそうになる時さえあるが、いつかきっと光が見えてくる」と、大変励みになった先生の言葉が常に耳に響く。

絵にも勝る青空を見上げながら、この夢の土地で更に力を鍛え、悔いのない日々を送っていきたくと決意した。日本語を勉強してよかった！日本に来了よかった！

日本で学んだ良い経験で良い仕事に出会いたい。

ポクプチチ ナターシャ(Pokupcic Natasa)(クロアチア)

神戸大学大学院文学研究科・修士課程2年・文化動態専攻



私が日本に興味をもつようになったのは、私のクロアチアの友達が生神戸大学に留学し、その友達が神戸大学や日本の生活についていろいろなことを教えてくれたからです。その後、日本の文化や研究のテーマについて調べ、私は日本へ行こうと決めました。私の国と

比べると日本は文化が違います。日本はとても不思議な国だと思いました。クロアチアは人口が少ないし、日本語を話すクロアチア人もあまりいませんから、私は新しいことが始められると思いました。

私の研究は日本の昔の絵馬の奉納やそれらの保存科学の調査です。具体的には、神戸市にある敏馬神社の絵馬の調査をしています。また、神戸市埋蔵文化財センターで様々な保存科学の

調査や研修に参加しています。

私にとって、日本の留學生生活はとても良いと思います。私の指導教授はいろいろ助けてくれます。チューターの方も私の世話をしてくれますから、あまり大きな問題はありませんでした。日本に来了当初は時間の余裕がありましたから日本の各地を旅行しましたが、今年はとても忙しいです。

将来の夢は、まずは論文を書いて、大学院を卒業することです。その後は仕事を探します。帰国したら、日本で学んだことを活かしたいです。多分私の夢はシンプルに見えるかもしれませんが、私の国で良い仕事を見つけることは宝くじと同じですから、実はそれが夢になるのです。

私は日本で得た経験を大事にしたいと思います。時々、留學生生活は難しいと感じますが、日本から良い思い出をもって帰りたいです。日本は私の第二の国です。

国際化・ボーダーレスが進む中、文学部としての外国
どのような展開とな
留学生担当講師の2人の先生に現況

留学生の内訳と国籍

平成19年7月現在、神戸大学文学部には学部7名、大学院60名（文学研究科16名、文化科学研究科24名、人文学研究科20名）の留学生が在籍しています。国又は地域別に見ると中国からの留学生が最も多く、韓国や台湾などがこれに続きます。これ以外にも、過去5年間に文学部に留学した学生の国又は地域は、アジア圏ではモンゴル、タイ、ベトナム、インド、中東圏ではイラン、イスラエル、欧米圏（中南米を含む）ではアメリカ、カナダ、オーストラリア、ブラジル、ハンガリー、ルーマニア、クロアチア、セルビア・モンテネグロ、ベルギー、ドイツ、フランス、スウェーデンなど広範囲にわたっています。

留学生への支援

文学部では個々の留学生に対して指導教員を配置しています。また、学位論文執筆にあたって日本人学生によるサポート制度を導入し、オフィスアワーを設け、留学生の研究、生活上の指導を行うなど、各専修の授業やゼミへの参加を通じて留学生が円滑に留学生活を送るための学習環境を組織的に整備しています。一方、全学組織である神戸大学留学生センターでは、日本語教育をはじめとした学習プログラム、教育相談などさまざまな形で留学生の学習支援を行っており、留学生センターのスタッフと文学部のスタッフの交流も盛んです。さらに、大学院文学研究科（修士課程）及び大学院文化科学研究科（独立研究科：後期3年博士課程）の改組・統合により平成19年4月に新たに設置された神戸大学大学院人文学研究科では、留学生センターと協同で日本語日本文化教育プログラムというプロジェクト型教育研究組織を活用した研究科共通科目を実施し、留学生教育のための体制の一層の充実をはかっています。

独自の国際交流企画

以上に加え、文学部では独自の国際交流企画として「留学生のための見学ツアー」と「留学生フォーラム」を毎年行っています。

「留学生のための見学ツアー」は留学生に神戸をはじめとする日本各地の文化を認識してもらうとともに、留学生、日本人学生、教職員が相互に異文化理解を深め、さらなる交流と親睦をはかるという目的で毎年5月に行っている日帰りのバス旅行です。第8回の今年も天橋立を訪れました。参加者はチューターの日本人学生や教職員を含めて48人という、大変にぎやかな旅行となりました。

「留学生フォーラム」は留学生と日本人学生がお互いに考えを発表し、相互理解を深めるために毎年11～12月に行っている企画です。第17回の昨年度は「家族のあり方—留学生の家族観、日本人の家族観—」と題したトークセッションと、その後交流パーティーを行いました。昨年度の「留学生フォーラム」の参加者は約50名で、自分にとって家族とはどういう存在か、日本と外国の家族のあり方で共通する点、違う点は何か、といったテーマで熱心な討論が交わされました。

概況 (平成15年度～19年度)

からの留学生の受け入れや外国の大学との学術交流は、
っているでしょう。
についてまとめていただきました。

プラシャント・パルデシ 学術博士・
言語学科講師
横田隆志 国文学科講師

海外の大学との学術交流協定

ところで、神戸大学文学部では、共同研究、情報交換、教員、学生交換等を目的として、現在、韓国
の木浦大学校、成均館大学校、韓国海洋大学校、中国の江南大学、鄭州大学、中国海洋大学、中山大學、
アメリカのワシントン大学、ポーランドのヤゲウォ大学、連合王国 (UK) のパーミンガム大学と協定
を結んでいます。文学部の留学生の中には、姉妹関係にあるこれらの大学から来た学生も含まれていま
す。そのほかに神戸大学全体が協定を結んだ大学としてイギリスのロンドン大学、フランスのパリ第
10大学、オーストリアのグラーツ大学、チェコのカレル大学、オーストラリアのクイーンズランド大学、
西オーストラリア大学などがあります。こうした協
定校間の留学には、単位の互換のほかに協定校の入
学料、授業料、検定料の免除、奨学金制度などの特
典があります。

文学部は、従来、留学生と日本人学生の交流、そ
して留学生の学習支援に大きな力点を置いてまい
りましたが、あわせて海外の大学との姉妹関係を継続
発展させ、留学生教育と国際交流の一層の充実をは
かっていきたいと思っております。



留学生と日本人学生が考えを発表し合うトークセッション

過去5年間の国または地域別留学生数の推移

文学部

国名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
中国	6	6	1	1	1
韓国	1	4	2	4	3
台湾	1	1	1		
モンゴル				1	1
イラン		1			
イスラエル	1				
アメリカ		1	1	1	
オーストラリア	1	1	1	1	
ハンガリー				1	1
ブラジル					1
小計	10	14	6	9	7

文学研究科

国名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
中国	13	15	18	19	10
韓国	2	4	4	3	2
台湾	6	2	3	4	2
イラン			1	1	
カナダ			1		
ハンガリー	1	1			
ルーマニア			1		
ベルギー				1	1
クロアチア			1	1	1
小計	22	22	29	29	16

文化学研究科

国名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
中国	14	13	14	15	11
韓国	8	8	7	10	5
台湾	6	3	4	4	4
タイ	1	1			
インド	1				
アメリカ	1	1		1	1
ドイツ	1	1			
ハンガリー			1	1	1
ルーマニア				1	1
フランス				1	1
小計	32	27	26	33	24

人文学研究科

国名	19年度
中国	10
韓国	5
台湾	2
ベトナム	1
セルビアモンテネグロ	1
スウェーデン	1
小計	20

年度別 総数	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	64人	63人	61人	71人	67人

香港はどこいのか

英米文学科 9回生 中野 裕

2007年7月に香港の中国返還10周年を迎え盛大な式典が開かれたとの報道がなされたが、それを遡ること40年前の1967年4月、曇天の英国領・香港啓徳空港に初めて降り立った時の印象は昨日のように記憶に新しい。初めての外国出張が中国であり、当時は直接の乗り入れはなく、香港経由のルートしかなかった。往時の中国は文化大革命がスタートしたばかりの革命の嵐の最中であり、硬派の中国、軟派の香港であった。往時の香港は、九龍半島はまさに歓楽街、香港島は住宅街と、はっきりと線が引かれていた。九龍島と香港島を結ぶ唯一の交通機関は、スター・フェリーであった。香港島には、当時有名であった香港大丸があり、日本人のショッピングの標的であった。今はこの大丸もなく、九龍島も香港島も大差ないほどの大ショッピング・飲食街となっているが、これはスター・フェリーの他に、ビクトリア湾を通過するトンネルでの交通が発達した結果、地下鉄、車での移動が容易になったことが大きな要因としてあ

げられる。香港は97年の通貨危機により、経済に大きな打撃を受けたが、その後順調に回復し、高成長に戻ってきたのである。この経済の活性化は「香港の中国化」の裏返しと言っても過言ではないと思う。中国の人民元が街でもまかり通り、また独特のニュアンスを持つ愛嬌のある広東語より、北京語が幅を利かせていると聞く。まさに「香港の中国化」である。鄧小平閣下の唱えた「一国二制度」が半世紀続くのだが、次の10年は、「香港の中国化」を持続するのか、はたまた「中国の香港化」に向かうのか、香港の舵取りをしっかりと取る行政長官の出現が待たれる。文革のころ、中国で毎日のように自らも歌い、聞かされた革命歌「大海航行靠舵手」(大海を航行するには舵手に頼るという毛沢東思想賛歌)のごとく、この香港という荒波を乗り越えるには、毛沢東主席のようなしつかりとした舵手(行政長官)が必要であるという革命歌を思い出すこのごろである。

社会人になって今思うこと～大学時代の友人～ 社会学専修 54回生 成田 裕明

社会人になってはや3ヶ月。
 大学の友人には、九州などの地元に戻って就職した者、関西に残った者などいろいろいて、バラバラになってしまった。
 そんな中、奈良県生まれ奈良県育ち、関西しか知らない私とはいえば、広告代理店の東京本社に勤めることになった。
 「学生と社会人は違う。」
 入社してから耳が痛くなるほど聞かされた言葉である。
 確かに、そう感じることは多く、3ヶ月たった今でも、慣れないことは多い。
 しかし、私にとっては、次のことも戸惑いの元である。
 「大阪と関西は違う。」
 高校や大学の友人で、私と同じように東京の会社に就職した人間も何人かはいる。
 しかし、ほとんどの人間は、関西に残って仕事をしたり、学生を続けたりしている。
 東京にいる友人も、それぞれ働いていて忙しく、連絡は取れても会うことはなかなか難しい。
 そうなると、たまに仕事終わりに飲みに行こうとなっても、ほとんどが会社の同期となってしまう。
 会社の同期にも仲の良い友人はいるが、本当に仕事を忘れて飲むことはなかなかできない。
 関西に残った友人から、「今関西で数人で集まって飲んでいる」みたいな連絡があると、飛んでいき

たい気持ちになる。
 慣れない仕事と慣れない環境、この二つに戸惑っているのが私の現状である。
 * * * * *
 学生時代の私を一言で表すとすれば、やはり「野球小僧」ということになるだろう。
 小学校3年から大学4回までの14年間、野球を続けた。
 大学四回時にはキャプテンも務めさせていただき、貴重な経験となった。
 「学生と社会人は違う」と前述したが、キャプテンの経験は、社会人になっても多少は生きていると思う。
 野球を引退してからの私は、卒業論文をそれなりにやりつつ、様々な友人と飲みに行ったり、お金がないながらも車で温泉巡りをしたりと、寝る間を惜しんで遊んだ。
 そのため、入社する頃には貯金を使い果たした。何か買ったわけでもないのに形に残っているものは何一つ手元がない。
 しかし、学生最後の半年、友人と過ごした日々の思い出だけは、今も胸に残っている。
 なかなか会えないけれど、やっぱりしんどい時、へこんでいる時は電話してしまう。
 大学の友人は一生物なんだろうなどと、最近実感している。

「Cool Struttin'」

南 輝子 (国文学 15 回生)

抱きあって、荒い芝生の斜面をころがっていく。背後の六甲山が都市のかるやかな色調で、初夏の緑をしたたらせている。ころがりながらふっと目を開くと、眼下に、真昼の靄に滲んだ海がひろがる。山の北面から流れてきた薄い雲が、光を包みこみ、翳らせ、きらめかせ、ゆっくり街へ降りていく。キャンパスは Occupied Japan の名残り、米軍将校住宅跡地だから、神戸で一番見晴らしがいい。薔薇の咲き乱れるちいさな駅、阪急六甲から急な坂道を登りきると、傾斜の街がいきなり東西にひろがる。昼間は海と山に挟まれ殊勝気に沈黙している街だが、夜となればいつせいに電光を照輝かせ、海の際までせりだしてくる。百万弗の夜景である。

「コウベは夜がええ。」 ユースケも目を開けた。私は反論する。芝生が肌を刺す。キャンパスの森で山鶯が鳴いている。

「コウベは昼がええんよ。」 夜は海も山も闇に沈み、得体の知れぬエネルギーを隠し持って無気味だ。急にユースケは抱きあって腕をほどき、静止する。ねころんだまま遠い目で空を見る。ランコのことを思っているのか。極端に長くしなやかな四肢。潤んでこぼれんばかりの黒い瞳。インドの血が濃くでているランコの顔立ちに、だれもが振り返る。なぜユースケがランコと別れたのか、知らない。悲しんでいるランコ。美しい横顔が歪む。ガス自殺に失敗したと『パンピ』の常連が噂している。包丁を持ち、ユースケをつけねらっているなんて、エキセントリックなランコらしい。だからユースケは『パンピ』に近づけない。お気に入りのバド・パウエルも当分聴けない。遠い目のまま、ユースケは午後の授業もさぼってねころがっているのだろう。

チャイムが鳴る。ソシユール言語学の集中講義を受けるため、私はのろのろ起きあがる。海を見たい。教室では素早く海の見える席をとる。こういう時だけ敏捷なのだ。優取虫たちは最前列に勢揃いだ。斜めの街も海も、午後の光が白くぼやけている。紀伊半島もきょうは鈍い。開け放した窓を、山からの風が海へ吹きぬける。もうユースケのことも、ランコのことも忘れてしまう。退屈な講義が終わったら、阪急六甲まで駆けおり、電車に飛び乗ろう。三宮山側の『パンピ』へ飛んでいく。ソニー・クラーク《Cool Struttin'》をリクエストしよう。ジャズ狂いでおせっかいのトオルが言うだろう。いつものように。マクリーンはやめとけ。ジャズはマイルスや。絶対マイルスと五月蠅い。でもジャッキー・マイルスのこのアルトサクスが素敵なんだ。ニューヨークを闊歩する女の気取った足どり。ハイヒールのセクシーなジャケット。どんなに睨まれてもコーヒー一杯で閉店までねばるんだ。教壇では初老の教授がぐもった声で喋っている。のろのろチョークで板書する緩慢な動作が、モノクロ映画のようにぼんやりかすんで……いく……。

ベトナム戦争が始まった。キャンパスがだんだん不穏になっていく。ビートルズが世界を熱狂させる。ファンキー。ピバップ。巨大な『パンピ』のスピーカーから、マックス・ローチ《We insist》のアビー・リンカーチンが絶叫する。アパルトヘイト反対!! オカチン。ハルキクン。ジム。同性愛は反戦平和のひとつの意思表示として、軟弱だが意外にしたたかな、権力への抵抗でもあった。

'65年、二十歳の青春である。

(同人歌誌『眩』54号所収)

南 輝子 (みなみてるこ) 1944年和歌山生まれ。短歌結社『眩』会員で、99年「神戸新聞文芸」年間最優秀賞受賞。2002年第13回上田三四二賞を詩画集『美しき豊潤』で受賞。画家としての個展活動や、ジャズCDのプロデュースなど幅広く活躍。詩集に『おおああ』、歌集に『ジャワ・ジャカルタ百首』などがある。

この南さんの作品をはじめ卒業生のエッセイを、下記の神戸大学文学部・大学院人文学研究科同窓会のホームページ<文窓(ふみのまど)>に多数掲載しています。ぜひご覧ください。

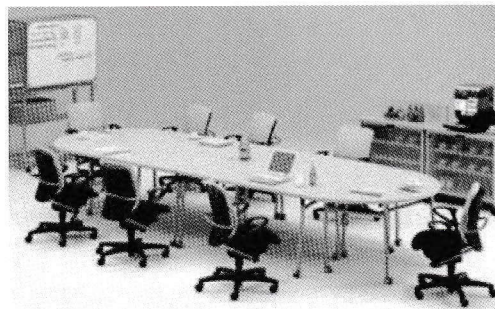
<http://home.kobe-u.com/lit-alumni/essey.html>

文学部本館の全面改修に伴い〈多目的室〉を新設。 文窓会会員の集いの場にも。

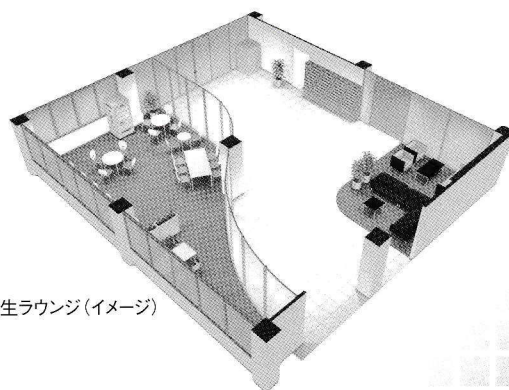
本誌表紙に掲げた文窓会名誉会長・松嶋隆二文学部長からの巻頭言にも触れられているように、昨年度の文学部新館耐震補強工事に引き続き、懸案であった昭和39年竣工の文学部本館の全面的な改修がこの秋いよいよスタートします。

学生や教職員のためのアメニティー空間を確保し、快適な勉学環境を実現するためのさまざまなプランに加えて、文学部にとって必須の人文系図書館のスペースの拡大や、それを機に市民の図書利用も前向きに検討されています。

工事の完了は来春の新年度に合わせて予定されています。文窓会会員にも、図書利用に加えて、新しく誕生する多目的室が利用できるなど、ますます文学部が身近になりそうです。



多目的室(イメージ)



学生ラウンジ(イメージ)

OBANS CLUB

題字は紫舟さん。
(NHK「美の壺」題字でおなじみ。
神戸でデビューした書家です)

神戸大学文学部で学んだ
「団塊の世代」女性3人が
(WEBデザイナー-川村恵美子、コピーライター-田中睦子、マーケティング&プランナー-吉本由美子)
同じ世代向けの元気応援サイトを立ち上げました!
お互いの、そしてみんなの未来に
“明るい虹”をかけようと奮闘中です。

関西の団塊世代、つながろう。

オバンスクラブ

8月中旬プレオープン!!

みんなシニア1年生。
元気よくいこう。
自分生活を楽しもう。
いい仲間を見つけよう。
歳を重ねるって、いいことかも!

毎日を面白くするいろんな情報、詰まっています。

ひらけ。すすめ。



<http://www.obans-club.com>

東京支部便り

●同窓会（文窓会）および木曜会

1. 第4回神戸大学文学部・東京支部同窓会（文窓会）

下記にて開催した。

場 所：神戸大学東京凌霜クラブ

日 時：2006年11月30日（木）14時30分より16時30分時まで

主席者：文窓会東京支部メンバー18名

2. 第46回神戸大学木曜会：

文学部の担当であり、昭和31年・文学部卒業の脇田晴子様（滋賀県立大学名誉教授、現城西国際大学客員教授）をお招きして、講演をお願いした。

日 時：上記同窓会と同日、18時より20時まで

場 所：上記同窓会と同場所

講演の演題：「相撲はなぜ女性を拒否するのか
一けがれ思想と女人禁制」

主席者：約50名、内文窓会15名

3. その他：

①メル友：現在手元にあるメル友の名簿には、約106名の方が登録済みで、（今回の案内状発送時は103名）東京凌霜クラブに関係する情報をその都度流しています。メル友に加えて欲しいとの希望者は右記にEメールを下さい。

②文窓会東京支部として、今回194名（Eメールで103名、ハガキで91名）に案内を差し上げたが、返事なしが、合計96名（Eメールでは58名、ハガキでは38名）であった。ハガキは、第一回、第二回、

第三回と返事のなかった方およびEメールのメル友を除き、関東在住の平成13年度までの卒業生全員に郵送した。

名簿は平成14年度作成分を使用して発送したが、住所不詳で返送のあった方が2名あった。（前回の第三回時には、70名もあったが、この方々をはずして送付した結果2名となったもの）

③本部より、東京支部に、2006年分として3万円のご寄付をいただき、これにて上記の郵送費および雑費をまかなうことが出来た。

また、2007年分として、5万円のご寄付をいただき、これは下記の第五回同窓会（文窓会）の郵送費および雑費として使用させていただきます。ご配慮に感謝いたします。

④次回 第五回の同窓会（文窓会）及び木曜会の案内：2007年10月25日（木）の木曜会（文学部担当）の開催前に、第五回の東京支部の同窓会（文窓会）を開催する予定。

場所は東京凌霜クラブ。別途案内を送ります。

（中野裕記）

（日比谷帝劇B2 電話：03-3211-2916）

東京支部役員：

支部長 小野幸次（32年卒）

幹事 河野房子（35年卒） 中野 裕（36年卒）

東京支部連絡先：

〒223-0064 横浜市港北区下田町1-1-113

TEL&FAX：045-561-6317

Eメール：y.nakano.1938-panda@d9.dion.ne.jp

中野 裕

中部支部便り

文窓会東海支部の第3回総会・懇親会が6月9日、名古屋市千種区のホテル「ルブラ王山」で会員16人が出席して開かれた。

総会では、萩紀男支部長から東海支部を発展的に解消して、従来の愛知・岐阜・三重・静岡県に長野・石川・富山県の卒業生も加えた中部支部にする規約の一部改正案が提案され、了承された。福井県も加えてはどうかの積極的意見も出され、今後の検討課題とした。役員改選では、新しい支部長に勝原博さん（昭和43年卒、社会学、愛知県）以下6人の幹事を選出した。また9月のホームカミングデイ、大学本部、文学部からの寄付要請も説明された。

引き続き京都から出向いていただいた中世女性史を研究し、平成17年に文化功労者に選ばれた脇田晴子先生（昭和31年卒、国史学）の講演に耳を傾けた。脇田先生は世界遺産登録に向けて準備が進む「石見銀山とその能楽」について、「創作能 石見銀山」のビデオ

を使い、銀山の歴史的背景やその意味合いを専門外にもわかるようにていねいに語られた。

懇親会では、1年ぶりの再会を喜び、現在の活動や思い出話に花が咲き、笑顔がはじける1日になった。年齢こそ違っても同じ学部で学んだ目に見えない精神的紐帯があると思われる。今回初めて出席した会員も和気あいあい、活発に意見交換していた。最後に来年6月、再会することを誓って散会した。

今回は脇田先生の講演に関心を寄せた齋藤正和さん（昭和28年、経済学部）も特別参加した。

▽ 中部支部新役員（敬称略）

支部長 勝原 博（昭和43年、社会学、愛知県）

幹事 山田 伸司（昭和38年、英米文学、静岡県）

大西津南生（昭和42年、国史学、三重県）

瀬戸 一夫（昭和42年、芸術学、愛知県）

赤松 正行（昭和59年、心理学、岐阜県）

松澤 昭史（昭和40年、芸術学、長野県）

文窓会（文学部同窓会） — 会計報告 —

平成18年度収支計算書（平成18年7月1日～19年6月30日）

収入総額	9,157,803	(当期収入 5,161,682)
支出総額	5,005,262	(当期支出 5,005,262)
差引	4,152,541	(当期差引 188,454)

19年度予算書 (19・7・1～20・6・30)

収入	14,237,262
支出	14,237,262
	0

収入の部	予算額	決算額	差異	19年度予算額
会費納入金	4,000,000	4,230,000	230,000	4,000,000
協力金	1,000,000	914,000	△ 86,000	1,000,000
利息金	0	17,682	17,682	5,000
總會等会費	0	0	0	80,000
雑収入	0	0	0	0
前年度繰越金	3,996,121	3,996,121	0	4,152,262
積立金取崩金	0			5,000,000
収入合計額	8,996,121	9,157,803	161,682	14,237,282

支出の部	予算額	決算額	差異	19年度予算額
会議費	150,000	119,554	△ 30,446	150,000
事務印刷費	80,000	24,465	△ 55,535	50,000
通信交通費	120,000	128,790	8,790	150,000
交際接待費	250,000	206,040	△ 43,960	250,000
協力金費	1,300,000	1,235,230	△ 64,770	900,000
（学友会費）	(200,000)	(148,650)	(△ 51,350)	(200,000)
（活動援助費）	(200,000)	(186,580)	(△ 13,420)	(200,000)
（学術助成費）	(900,000)	(900,000)	(0)	(500,000)
会報費	1,800,000	1,603,462	△ 196,538	1,800,000
歓送迎会費	500,000	489,950	△ 10,050	500,000
（卒業生対象）	(500,000)	(489,950)	(△ 10,050)	(500,000)
（入会生対象）	(0)	(0)	(0)	(0)
總會幹事会費	200,000	327,016	127,016	350,000
事業活動費	1,000,000	800,000	△ 200,000	1,300,000
慶弔費	100,000	0	△ 100,000	100,000
雑費	50,000	64,755	14,755	50,000
積立金	1,500,000	6,000	△ 1,494,000	0
施設改修寄付	0	0	0	6,000,000
予備費	1,946,121	0	△ 1,946,121	2,637,262
支出合計額	8,996,121	5,005,262	△ 3,990,859	14,237,262

平成18年度財産目録（平成19年6月30日現在）

科目	金額	
I 資産の部		
(1) 通常会計流動資産		
現金	220,128	
普通預金	403,428	(中央三井信託銀行)
普通貯金	1,371,045	(郵便局)
郵便振替	2,157,940	4,152,541
(2) 特別積立金		
定期預金	11,510,000	(みなと銀行)
定期預金	4,000,000	(中央三井信託銀行)
定額郵便貯金	8,210,000	(郵便局)
		23,720,000
II 負債の部		
(1) 流動・固定負債	0	0
III 正味財産合計		27,872,541

事業年度に係る決算報告書を監査した結果、
適正であることを認めます。

平成19年7月25日

会計監査 **中 川 一 三 印**

会計監査 **永 田 良 印**

第2回 神戸大学&文学部 ホームカミングデイ2007 Kobe University Homecoming Day 2007

9月29日(土)

神戸大学ホームカミングデイ2007

今年のホームカミングデイは、このたび策定された「神戸大学ビジョン2015」(2015年までに国際的拠点大学としての確固たる地位を確立する)の達成へ向けて取り組む神戸大学を多くの卒業生やその家族らに見ていただこうと企画されたもの。現在大学全体で72カ国(地域)から951名にのぼる留学生を迎えており、今年から留学生ホームカミングデイとの合同開催となります。

※詳しくは下記のホームページを参照。
神戸大学 学友会(全学同窓会) <http://www.kobe-u.com>

■記念式典(10:30～12:00) ■会場/六甲台講堂
総合司会 NHKアナウンサー 住田功一氏(1983年経営学部卒)
※招待者のみ

■特別展示見学・イベント

●神戸大学史特別展/キャンパスの変遷に見る神戸大学史(9:30～17:00)、●国際コミュニケーションセンター/最新の外国語教育を体験(受付13:30～/13:40～15:10)、●社会科学系図書館見学/近代神戸の源流を訪ねて-開港と居留地-(10:00～17:00)、●ホームカミングデイ市/大学院農学研究科が共同で育種し栽培した酒米の大吟醸酒「神戸の香」ほか、神大オリジナルグッズを販売(10:30～17:00)

文学部ホームカミングデイ2007

会場 瀧川記念学術交流会館 旧友お誘い合わせのうえ多数ご参加ください!

13:30～ 受付
14:00～14:10 文学部長あいさつ
14:20～15:20 真方忠道名誉教授による講演会
15:40～16:30 第1回文窓賞(学生レポートコンテスト)入賞者表彰式
16:45～18:30 懇親会(参加費:2,000円)

展 示

地域連携センター及び海港都市研究センター
関係(瀧川記念学術交流会館1階にて)

※詳しくは下記のホームページを参照。
文窓会(文学部同窓会)<http://home.kobe-u.com/lit-alumni/>

<http://home.kobe-u.com/lit-alumni/>

ホームページ「文窓」をご存知ですか

萩 紀男(国文学 8回生)

昨年12月中旬より、ホームページ「文窓」の管理を担当させていただいております。この六ヶ月間、文窓会に相応しい、特色あるホームページの運営を心がけて参りました。しかし、なかなか思うに任せません。

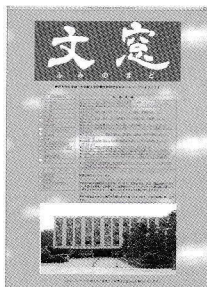
ホームページの目的は次の二つだと思います。

1. 広報機能を果たすこと。
2. 会員相互の親睦を図り、文窓会の活動を通して母校の発展に寄与すること。

ところで、ホームページ「文窓」の存在が、どこまで会員の皆さんに認識されているのか、甚だ疑問に思えてなりません。文窓会は会員6千名を擁する大きな団体です。したがって連絡事項もたくさんある筈です。ところが、広報目的でこれをご利用いただく例は極めて少ないのが現状です。

誠に残念といわざるを得ません。

役員会の決定事項や、文窓会活動に伴う連絡、或いはクラス会や同年会、その他さまざまな会合のお知らせなど、ホームページをご利用いただくことで、より一層円滑な情報伝達が可能になるものと思われます。ホームページ「文窓」の活用について、一度お考えいただいたらいかでしょうか。



また、会員相互の親睦を図るため、幾つか投稿のページを設けてございます。学窓を同じくする者には、なにかしかな心の底に触れ合う共通の思いがあるはず。学生時代の思い出、人生の折に触れて感ずること、日常生活のこと、仕事のこと、研究生生活のこと、旅行記など何でも結構です。ホームページで語り合うことを通して、より一層親交を深め、交流の輪を広げて頂きたいと思っております。

ホームページ「文窓」は、文窓会の貴重な資産です。これを価値あるものにするか否かは、まさに皆さん次第です。皆さんの英知で、魅力あるホームページに育て上げていただきたいと切望してやみません。

アドレスは次の通りです。どうぞしばしばご訪問ください。
<http://home.kobe-u.com/lit-alumni/>

国立大学の法人化に伴い、「文窓会」でも同窓会の活性化を図るべく努力して参りました。ホームページ充実もその一つで、昨年12月には東海支部の萩紀男氏にホームページ「文窓」の管理を依頼しご尽力頂きました結果、この半年間で「文学部」の味わいのするホームページが生まれつつあります。今後このホームページを育てていくのは文窓会会員の皆さんです。是非ご協力賜りますようお願い致します。

池上 淑子

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ **神戸大学学友会について** ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

神戸大学学友会は各学部同窓会の相互交流と大学の発展に寄与するため、同窓会の連合体として組織され、各学部から選出された人たちによる幹事会で運営されています。

具体的な活動としては、幹事会や大学役員との懇談会のほか、大学広報誌（KOBE university STYLE）編集委員会、神戸大学クラブ（KUC）運営委員会、データベース委員会などです。現在、学友会を構成している同窓会は下記のとおりで、会長は新野幸次郎凌霜会理事長です。


神戸大学学友会を組織している同窓会			
● 神戸大学文窓会	● 神戸大学翔鶴会	● 神戸大学紫陽会	● 社団法人凌霜会
● 神戸大学くさの会	● 神戸大学神録会	● 神戸大学就進会	● 社団法人神戸大学工学部振興会
● 神戸大学六篠会	● 神戸大学海事科学部同窓会		

「神戸大学クラブ」(K・U・C)に入会しませんか

神戸大学卒業生が学部の壁を越えて、交流をはかり親睦を深める集いがK・U・Cです。神戸、大阪、東京で、それぞれ別々にいろいろな活動を展開しています。神戸K・U・Cは元町の牡丹園に事務所を置き、講演会、読書会、ゴルフ、旅行など、楽しい催しを実施しています。

ご入会ご希望の方は 078-334-1323 までご連絡下さい。

詳しいパンフレットをお送り致します。 (K・U・C運営委員 日高 健一)



文窓会主催卒業記念ウェルカムパーティー

平成19年3月23日 於ランスボックス



正装したLadies & Gentlemenが集い今年も恒例のウェルカムパーティーが行われました。豊富な酒肴をいただきながらの楽しい談話・お楽しみ抽選会と学生生活最後の一時を過ごしてもらえました。

毎年経験する“新しい羽ばたき”には感動するものがあります。

同窓会名簿告知

『同窓会名簿』が新しくできました。(1部 4,000円) 大学内同窓会気付でハガキで申し込んでください。

編集後記

大学に向かうバスに乗る。外国籍らしい学生が結構見受けられる。どの国の留学生だろうか、なんて考える。大学に入って丁度半世紀の我々の時代は、海外留学と言えばフルブライトの奨学金を受けた極少の学生がアメリカに行くくらい、受け入れ体制は皆無に等しかった。今、教育再生会議が掲げた留学生100万人構想なんてものもあるらしい。が一方ではまだまだ日本は「知の鎖国」状態にある、と言う説もある。神戸大学も学部の3割、大学院の半分くらいが海外からの留学生なら面白かろう。実社会にいと世界的規模で「人資源」の争奪戦が始まっていることが実感される。この面でも特にボーダレス時代に突入している、と言うことで今回は留学生特集としました。

今年から文窓会主催の「文窓賞」を設けました。今回は急なことで応募作品も少なかったですが次回からは選ぶに苦勞するほど数多くの応募を期待しています。楽しみにしています。ホームカミングデイでの表彰式を恒例にしたいと思います。

鞆井記